

# 《新世界》から発信されたドヴォルジャークの手紙と当時のアメリカ

追 悼

その(26)



半 場 久 也

の教師。自分の息子の仲介でドヴォルジヤークと知り合う)。

ニューヨーク、一八九四年五月十八日

『親愛なる友よ!

既に明日、我々はヨーロッパへ出発します。それで私はあなたに御機嫌よろしくと言いたいのです! さようなら!

コヴァルジークは今のお住まいに留まつて、あなたもご存知の通り、夏にはする

おられるでしょう。特に我々の様に長い間故郷を失つたと思う人間にとつて、また、そうしたこと慣れていない人間にとつて!

しかし私には大事な父が元気な状態で会えるという大きな楽しみが失われたのです。というのは彼は三月二十九日に、八十歳で亡くなってしまったのです。神よ彼に永遠なる喜びを!

## 故郷での夏休みを楽しみに

ヴィイソカーも楽しいけ

れど、私が気に入ったスピルヴィイも再び訪れたいと思つています

ことにありつくでしょう。彼はザイドルのところで夏の間、職を得ました。けれども私の思うには、こここの貧しい人々にとって、我々を抜きにしては厳しいものになるでしょう。しかしどうやつたらよいのでしよう。この際、仕方のないこと

です。

我々が故郷へ帰ることがどんなに嬉しいことか。あなたもはつきりと分かつて

スピルヴィルの神父ビーリーさんにどうかよろしくお伝えください。

◎ヤン・ヨゼフ・コヴァルジーク宛て  
(原注・1850)  
1939、アイオワ州スピルヴィルのチ  
エコ語及び英語学校

カットも筆者

「おじいさんその他、皆さんのことを我々は思い出しているのです。

皆さんお元気で、神様が守ってくれています。では再会するまで！ あなたとあなたの愛する人々全員にキスを送ります』

コメント 「ドヴォルジャークは、いよいよ、この夏休みを利用して故郷で過ごすことになった。この前の手紙で、五月十九日にニューヨークを離るとあつたので、この手紙はその前日には書かれたものである。自分の秘書にしていたコヴァルジーキ青年が、ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団へ、恐らくドヴォルジヤークの紹介で入団出来たのである。そのことを彼の父親に知らせる必要があつたのである。因みにこの男の名前も父親と同じらしい。〈ヤン・ヨゼフ〉といふ

イツ語

ヴィンカーレ、一八九四年八月二十五日

『大事なジム・ロシク様！

あなたが私に書いてくれた報酬に対して私は作品を渡すわけには参りません。

◎フリッツ・ジムロシク宛て（原文文）



NYのヘラルド・トリビューン紙に載った「新世界」初演の記事

私がニューヨークから出した手紙では、ソナチネと歌曲十曲とピアノのための組曲、それに《テ・デウム》を加えて一万マルクで渡すことが出来ると知らせたのです。《テ・デウム》はあなたに送つていません。これは二千マルクはこれら三曲の代金として受け取

りました。ソナチネと歌曲十曲とピアノのための組曲、それに《テ・デウム》を加えて一万マルクで渡すことが出来ると知らせたのです。《テ・デウム》はあなたに送つていません。これは二千マルクはこれら三曲の代金として受け取

### 音楽出版社側と

### 厳しい価格交渉

りました。私はそう解釈しているのです。

歌曲集とソナチネと組曲で八千マルクを要求します。どんなことがあっても、お金を受け取るわけにはゆきません。要求に基づいて返送します。

これらの譲渡に承諾のサインを致しませんので、差し当たり印刷を中止して下さい。

この件は、恐らくあなたの甥が「報

酬」という言葉で始めた間違いです。何故ならば、三千マルクということに關して私の手紙にも、またニューヨーク宛てのあなたの手紙にも、話題になつていません。即時の御返答をお願い致します。ピアノ用の小さな軽い作品集を次回用意します。

（きげんよう）

ニューヨークからの私の手紙では四

曲に対してはつきりと一万マルクを要求しました。ですから、これら三曲を三千マルクで渡すわけには行きませ

ん

◎フイリツ・ジムロツク宛て

プラーハ、一八九四年九月十九日

『親しきジムロツク様！

あなたが一八九四年九月九日に出された最後の手紙に私の作品、ヴァイオ

リンとピアノのためのソナチネと十曲の『聖書の歌』とピアノのための組曲

（参考引用文献）  
△内藤久子著『ドヴォルジャーク』――作曲家、人と作品シリーズ 章楽之友社

に関する報酬問題の食い違いを是正したいという話に私は満足しております。もしもこれらの三曲に（私の思ひ違いであつても）後から三千マルクを支払つてくれさるなら（テ・デウムは入つていません）、この際、新作のピアノ曲作品一〇一

番（八曲でタイトルは多分「ユーモレスク」）を四千マルクで提供出来るでしよう。

（きげんよう）

コメント 「ここではベルリンの楽譜出版社ジムロツクとの商売上の駆け引きが行われている。ドヴォルジャークは、

自分の作品の評判がよいことで強気になつて、相手のジムロツクを思つよう振り回している様子が見られる。ここでジムロツクは作曲家の要求に応じてしまつた

△ポール・ジョンソン著『アメリカ人の歴史』 別宮貞徳訳 協同通信社

△猿谷 要著『世界の都市の物語』 ニューヨーク 文芸春秋社

（ 続く ）

平成18年4月号から連載した音楽評論も、筆者が亡くなられ今回で中断の予定でしたが、ご遺族の意向で次号からも続けます。クラブ通信（143頁）をご覧ください。

△黒沼ユリ子著『わが祖国チエコの大地よ』（ドヴォルジャーク物語）リブリオ出版

△西洋の音楽と社会（9）世紀末とナンヨナリズム ジム・サムソン編 三宅幸夫訳 音楽之友社

△奥田恵一著『アメリカ音楽』の誕生 河出書房新社